

4月17日に、本校6年生85名を対象に実施された「全国学力調査」について結果がまとまりました。今年度の本調査は、国語と算数と理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を使う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えし

総合結果（国語・算数・理科）

国語、算数、理科ともに全国の平均正答率を上回りました。また、京都府の平均正答率とはほぼ同じ正答率という結果となりました。各教科において記述式の問い合わせの中件に沿って記述する際、無回答の割合が比較的高いという結果となりました。

国語科より

全体として全国平均回答率を上回っています。特に言葉の特徴や使い方、話すこと・聞くことに関しては多くの児童が正解していました。

しかし、国語を苦手としている児童は、文章全体から必要なことを読み取ることができなかったり、語彙が少ないため意味がわからなかったりするという課題があることがわかりました。

また、現在の6年生はコロナの影響でインタビューの経験が少なく、その目的や仕方が理解できていないことや、テストの形式に慣れていないために文章が長いと諦めてしまう傾向があることもわかりました。

今後の授業では、授業に対話やインタビューなどの「話す」活動を取り入れたり、きらきらタイム（帯時間）を活用して、既習事項を定着させたり

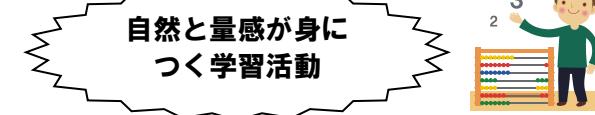


算数科より

全体的に概ねできています。特に図形の角の大きさを問われた問題や、複数のデータを活用して必要な数量を見いだす問題については、満足できる正答率となりました。

その中で最も正答率が低かったのは、通分が必要な分数の加法の問題でした。このことから、基礎基本が定着していないことや、数量関係が理解できていないことがわかりました。

また、これは国語力の影響もありますが、問題文を正しく読めていないために、問題の意味がわからっていないという課題も見えてきました。それに加えて、学習したことを生かして解くことができない傾向がありますので、今後は低学年のうちに具体物を使ってたくさん活動させて量感を身につけさせたり、「この学習が何に利用できるのか」を実感できる工夫をしたりする授業展開を考えていきたいです



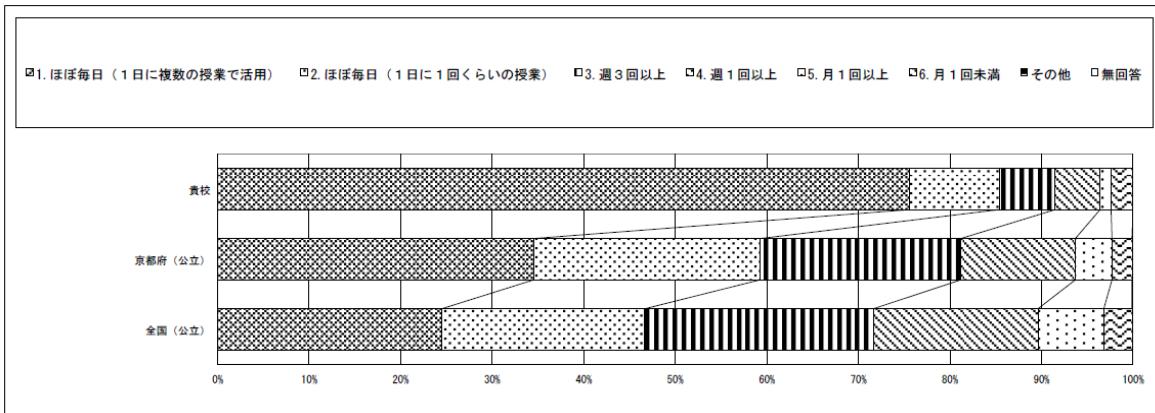
理科より

全体として全国平均回答率を上回っていますが、全市平均に並ぶ結果となりました。理科の傾向としては、最近学習した内容については正答率が高く、学習してから時間が経っているものの正答率が低いです。また、学習したことを生かして解く応用問題についても、正答率が低く、これらの結果から、既習事項が定着していないことや、知識として知っていても、それを生かす力がついていないという課題があることがわかりました。

今後は、子どもの「なぜ？」を大切にした探究的な学習を取り入れ、実際に「見る」「触れる」「感じ

児童質問紙調査から

Q 5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



本校の児童は全国や京都府と比べてタブレットを活用した授業を5年生までに多くの児童が経験しています。タブレットを必ず使わなければならないではなく、授業の中で活用できる場面を児童自らが主体的に選択できるような力を情報活用力として育成していきたいと考えています。

全体を通して本校の成果と課題

本校では、「仲間と支え合い 自ら考え進んで行動する 二条城北の子」という学校教育目標を掲げ、学校教育活動を立案計画し、進めています。学校だけでなく、家庭や地域におかれましても子どもたちの主体的な学びを支え自己指導能力の育成に向けて、多大な協力をいただき、その一旦が本調査に表れていることと思います。

ICTを活用した授業を通して子どもたちはタブレットの使い方に慣れ、学習場面で思考を深めたり友達の意見を参考にしたりするなどさまざまな方法を学んできました。これは本校の学びの成果であると捉えられます。しかし、学んだことを伝えたり表現したりする場面では早口になっていたり、声が小さくなっていたり自信のない様子が見られます。これは本校のこれから課題であると感じています。

各教科の学力の基盤には「やればできる」という自信が必要です。しかし質問紙の結果からも自分に自信をもてない状況にいる児童が多くいることがうかがえました。学力調査および質問紙の結果そして普段の授業の様子から今後も引き続きICTを授業に生かしながら子どもの強みを発揮し、学習や生活の中で自分ならできるという自信をつけることでさらに子どもたちが成長できるよう個に応じた支援を考えていきたいと思います。

保護者の皆様へ

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習の状況を知り、可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、「学校・家庭・地域」での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、少しずつではありますが、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや支援の成果が表れているように感じます。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。